

開講期	2025年度後期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	5614 戯曲を読む			開講形態（隔週 偶数＝隔週2コマ）	週間授業
種別	なし			定員	
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	○	全学開講	○
曜日時限	木曜3限				
教室	H205教室				
代表教員	田村 景子				
担当教員	田村 景子				
テーマと到達目標	副題：今日の世界は演劇によって再生できるか？ 劇場という一回的な場で生成される日本の近代・現代「演劇」に、文学としての「戯曲」は不可欠だった。舞台芸術がコロナ禍にさらされて徹底的な打撃を受け、新たな出発を果たした今こそ、「ことば」でアプローチしうる演劇の可能性を探ろう。				
概要	能楽や歌舞伎などのいわゆる伝統芸能から、近代以降の壮士芝居、新劇、アングラ、小劇場系……1960年代までに書かれた時代を画する戯曲から、日本の演劇の来た道と行く道を考える。 授業は講義形式の予定だが、受講人数によっては、グループ討論や戯曲の読み合わせなどを取り入れる可能性もある。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員（複数の教員が担当する場合のみ記載）	授業方式
第1回	ガイダンス				対面授業
第2回	近代以前の日本の伝統的な戯曲①――謡曲まで				対面授業
第3回	近代以前の日本の伝統的な戯曲②――歌舞伎台帳				対面授業
第4回	壮士芝居――川上音二郎の『オッペケベ節』				対面授業
第5回	浪漫主義的レーゼドラマ――北村透谷『蓬莱曲』と泉鏡花『夜叉ヶ池』				対面授業
第6回	自由劇場の結成――イブセン、シェークスピア、ゴーリッキ……翻訳時代到来				対面授業
第7回	「科白」劇――岸田國士『チロルの秋』と／の言葉				対面授業
第8回	プロレタリア演劇とそのゆらぎ――三好十郎『斬られの仙太』『浮標』				対面授業
第9回	演劇的戦時下				対面授業
第10回	戦後演劇の再始動				対面授業
第11回	文壇派戯曲①――三島由紀夫『サド侯爵夫人』と『鹿鳴館』				対面授業
第12回	文壇派戯曲②――安部公房『幽霊はここにいる』				対面授業
第13回	アングラ演劇と戯曲――寺山修司による破壊的創造				対面授業
第14回	終わらぬ戦争――木下順二『沖縄』の射程				対面授業
第15回	まとめ――今日の「セカイ」は演劇によって「新生」できるか？				対面授業
成績評価の基準	受講態度50%、期末レポート50%で評価する。なお受講態度は、出席はもちろん発言等の貢献度、授業中課されることのある小課題への取り組みなどを総合して判断する。2／3以上の出席がない場合は単位認定を行わない。				
履修にあたっての留意事項	扱う作品やトピックスは、授業の進行状況と受講者の関心に従って、随時変更する。シラバスに列挙した作品をはじめ、刺激的な内容や映像を授業中に提示する可能性がある。大きな音や光刺激に敏感な学生には、勧められない。				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					
【種別】人数制限（抽選）授業の優先条件					

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	対面授業においては、授業は配布プリントによって行う。 オンライン授業に切り替わった場合は、受講者それぞれが配布資料のダウンロードおよび印刷をすること。		
教科書	なし。Webシラバスのとおり、授業では広範な作品に言及する。興味をもった作品は是非、それぞれの受講者が、率先して読み進めて欲しい。	教科書(ISBN)	
参考文献	なし。Webシラバスのとおり、授業では広範な作品に言及する。興味をもった作品は是非、それぞれの受講者が、率先して読み進めて欲しい。	参考文献(ISBN)	